

令和 6 年度 第 1 回中井町総合計画審議会 議事録

日時 令和 6 年 9 月 30 日（月）14：30～16：30

場所 中井町役場本庁舎 3 階 3A 会議室

【会議次第】

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 委員の委嘱
4. 協議事項
 - (1)会長の互選及び職務代理の選任について
 - (2)令和 5 年度地方創生推進交付金事業 効果検証について
5. 報告事項

【第六次中井町総合計画関係】

- (1)後期基本計画（第二次中井町総合戦略）に掲げる重点プランの進捗状況の報告

【第七次中井町総合計画関係】

- (2)第七次中井町総合計画策定方針について
 - (3)テストアンケート（WEB）及び本アンケートについて
6. その他
 - 今後のスケジュールについて

【4.協議事項の議事】

- (1) 会長の互選及び職務代理の選任について
会長：牧瀬委員 職務代理：鶴井委員 で承認
- (2)令和 5 年度地方創生推進交付金事業 効果検証について
資料 1 により事務局より説明
(質疑)

協議事項（2）

委員	何も知らなくて言ってしまうといいのかなと思いますが、そもそもの今年の目標値 3 人というのは何故 3 人という目標がたてられていたのかということと、実績 8 人というのはどんな人がアプローチしてくれたのか教えていただきたいです。
事務局	説明させていただきます。上記の目標値につきましては、神奈川県の方で県西の活性化プロジェクトという計画を策定してございます。その中で、移住定住を目的にした計画にはなるのですが、こちらの相談してきた人数の目標値というものを計画策定時に設定しております。令和 3 年度が 1 人、令和 4 年度が 2 人、令和 5 年度が 3 人と年に一人ずつ増えていくと数字の目標となっていますけれども、こちらにつきましては、計画を進めていくうちに若干数目標値を増やしていくといった意味合いで、1 名 2 名 3 名と目標値を当初設定したものというかたちになります。根拠というのははっきりとは。
委員	根拠がない目標だと達成する意味がちょっとわからないというか。
事務局	できれば多い方がいいのですが、実際はですね、この人数につきましては町でいろいろと移住・定住の相談を受けております。オンラインの相談であったりとか、直接窓口に来られて

	相談される方、また町がですね、移住定住イベントのほうに赴いて相談を受ける方とかがいっぱいいます。昨年はそういった機会に中井町に移住したいとご相談をしてきた人数が8名という形での実績値となっております。同じように下のほうもですね、販路を拡大する特産品のアイテム数ということでこちらは令和3、4年度1品、令和5年度2品となっております。ここ数年、町のほうではブランドの開発に対して補助金を出すという事業を実施してきました。いろいろ町民の皆様・事業所のご協力のもと、いろいろなものが特産品として出てきています。この中でなかなか販路を拡大していくのがですね、ものはつくっているのですが、いかにそれを広めていくかというのが課題の一つということで、今回販路を獲得した特産品のアイテム数というものをKPIに設定させていただいて、目標値を1品、1品、2品というかたちでさせていただいております。実際に令和5年度につきましては、新たな特産品の応募自体は3品ございましたが、実際のブランド部会というものがございまして、そちらのほうで町の認定商品の選定を行っております。そこで町の認定商品となって、町の認定商品として売られたものが1品ということで今回は実績値が1品というかたちでなっております。
職務代理	中井町のブランドの1品の太鼓判につきましては、私も当初の一番最初の会議に参加させていただいて、いろんなものが生まれていったんですよ。そのときから販路拡大をどうやってPRしたらいいかっていうのは、ずっと言われていたのですが、今後、できたはいいけどそちらをどうやって販路拡大していくかという、今もそれがなかなかというお話しでしたが、具体策というか、それが多分、私の記憶で申し訳ないのですが、販路拡大という、どこに出したらいいかというのが長年言われているような気がしていて、その次の一手というか、具体的な販路はありますでしょうか。
事務局	販路ということで実際には当課ではないところが担当しているので、はっきりとした販路がどういふものなのかというのは承知していないところなのですが、当課として把握している内容としては太鼓判については委員もご存じのように、町で委託しています里都まちカフェ等で販売はしていただいていると思います。また、今はほぼ作製をされた事業者様の自主努力で販路拡大はしていると思うのですが、町としましても町の太鼓判のPRはさせていただいています。当課でも昨年までシティプロモーションを所管しておりましたが、各イベント等に出向いた際には太鼓判のPRもかねて実施をしております。またカフェでもインターネットで購入できるなどいろいろ販路拡大の努力はされていると思いますので、また引き続き取組を行っていきたいと思います。
職務代理	近隣の秦野市のイオンでブースを設けて町のこういった特産品の周知をさせていただいているというところもございますし、ふるさと納税の返礼品というような形での扱いもさせていただいている中で、すべてが販路というわけではないのですが、まず知っていただくことが重要なことだと思います。個々で、ご自分で販路を求めている方もいて、ある程度しっかりやられている方もいっぱいいます。まずは認知をしっかりしていただくところを順々に進めていけたらと思います。あとはそういったやっている方と一緒にコラボしていくとか、あとはブランドプロジェクトというかたちで町も事務局として携わりながらやっていたのですが、町の太鼓判を作られた方に集まっていただいて、その方たちで販路拡大をどうやったらいいかとか、そういった協議をしていただいていると認識しておりますので、進めさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

委員	直接関係あるかどうかはわからないのですが、事業費の中に毎年 400 万以上出ていますが、内訳はここに書いてあるどこの部分に使ったのか
事務局	事業費につきましては、県西活性化プロジェクトの中で、補助金を使っていろいろとやっております。この KPI の事業だけではなく、KPI の設定はできていないのですが、健康のプロジェクトということで、未病センターのほうにエアロバイクだったりとか、ウォーキングの機械、シティプロモーションの関係の備品購入だったりとか、宣伝費用、あとはスポーツ推進ということでウォークイベントだったりとかのイベント事業費にも活用させていただいております。あとはブランド開発にかかるものだったりとか、その宣伝にかかる費用がこちらの事業費ということになります。町で行っている推進交付金の事業のすべての費用ということでご理解をいただきたいと思います。
会長	だいぶ議論が白熱しているのですけども、メインは後半のほうだとおもいますので、あくまでもこの場は総合計画審議会ですので、5.報告事項以降が重要になってきますので、もし特にこちらの「十分達成」「未達成」について問題なければ、こちらでご承認いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。 (委員全員、異議なし)

5. 報告事項

【第六次中井町総合計画関係】

- (1) 後期基本計画（第二次中井町総合戦略）に掲げる重点プランの進捗状況の報告
資料 2 により事務局より説明

【第七次中井町総合計画関係】

- (2) 第七次中井町総合計画策定方針について
資料 3 により事務局より説明
- (3) テストアンケート（WEB）及び本アンケートについて
資料 4 により事務局より説明

委員	色々ご説明ありがとうございます。このような重点プランの結果をみた中で、事務局として一番どういうところに課題を見つけたのか、見解として思ったよりこういったところがいいものがみられたとかですね、そういうものがありましたら教えていただきたいです。
事務局	やはり、当課につきましては人口対策のほうの事務として所管をさせていただいております。転入者数であったり、出生数などが年 30 人を切っているという状況でございます。実際には転入者数よりも転出者数が多いということで、先ほどの町長のあいさつの際にもありましたように消滅可能性自治体になるということで、やはり人口については大きな課題になると認識しております。こちらにつきましては様々な町でも事業のほうは実施をして、人口減少を以下に緩やかにできるかというような取組をしております。当課のほうでも空き家を活用して、空き家を購入する補助金であったり、新築を購入された場合に補助をするということを行っております。こちらもいかに移住・定住をしていただけるかということで補助の利用の間口を広げることもさせていた

	だいております。逆にブランドの売り上げなどについては、非常に民間事業者様の努力によって目標値を大きく上回っているものもございます。あとは昨今の健康志向ということもあって未病センターの利用数については大きく上回って、町の福祉施策がある程度効果が出ているのかなと考えてございます。とは言いながら、経済面、事業所の関係であったりとか人口問題であったりとか、引き続き大きな課題があると考えております。こちらも策定を進めております第七次総合計画を、これから町民の皆様からご意見等聞いてまいりますけど、町としてもこのあたりの解決ができる政策立案ができるかというところで認識しております。
事務局	少し補足なのですが、やはり自治体ですので、人口対策は避けて通れないと理解しております。その中でも日本全国で人口減少していく中でどのような形で賑わいを維持していくかというところが命題となってくるのかなと思っております。出生数については全国的に増えることが難しいというところで、ただお亡くなりになる方が増えているということで自然増減についてはどうしてもマイナスになります。社会増減ということで、転入転出の関係なのですが、一時コロナ禍の状況で社会増減が増えつつあるところがあったのですが、ここへきて令和 6 年 1 月から現時点で転入超過という数字が出てきております。いろんな取り組みですとか、状況が変わってきた中でこのような回復の兆しが見えているところですので、これを好機ととらえましてさらに取り組みを発展させていただければという風に考えております。
会長	私から 1 点質問なのですが、この総合計画においては、目標人口は議論するのかということをお願いさせていただきます。
事務局	後のご報告のほうで説明させていただきますが、七次の総合計画につきましては、総合戦略というものを包含した計画にしたいと思っております。総合戦略については人口ビジョンというものの策定が義務付けられていますので、当然今後の人口推計というものは総合計画上の中に記載をしていくということになりますので、人口目標値というものも位置付けていくということになります。
会長	ありがとうございます。今後この中で議論していきますので、その際にはよろしく願いいたします。他にどうでしょうか。 他に何かありますか。なければ一旦次に行きまして、また振り返って議論していきたいなと思います。 続きまして(2)第七次中井町総合計画策定方針について、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料 3 により事務局より説明
会長	ありがとうございました。こちらに関しましてご意見・ご質問等ありましたらお願いします。どうでしょうか。
委員	資料的には、資料の 2 に戻るのですが、転入と転出についての数字がありまして、転入の方の主な理由であったり、転出の方の主な理由というのがわかれば教えていただきたいです。
事務局	一時期だけアンケートを取ったことがあるのですが、それ以外は転入転出について理由等は

	特段お聞きしているわけではないのですが、町として認識しているのは、転出については就職だったり進学だったりの時期に、10代20代の若い方が出ていくケースが多いというところで認識をしております。転入につきましては、当町は割と事業者が多いというのもあってやはり年度初めにあっては転入者数が増えるという、そういった事業者の理由もあるのかなと考えているところです。
委員	ありがとうございます。そうしますと、転出をどうにか食い止めるということに作用しそうなのが生活交通の満足度であったりとか、今ネウボラなどがかなり利用されている方が多いと思うんですけども、子育てする中での充実感で保護者の方だけでなく子供たちもこの町で充実して暮らせるという実感がすごく効いてくるのではないかと思いますので、この計画がうまくいけばいい歯車になって行くんじゃないかと感じました。
会長	いまのことにに関して質問なのですが、子供たちに対してもアンケートを取るのかという質問ですね、今、子供たちの話がありましたので、子供たちの幸福度というのはどうなのかということですね
事務局	この後にご説明はさせていただきますけども、10月11日から本アンケートということで実施をする予定です。基本はですね、住民から3000名無作為抽出を行いますけれども、お子様に対しては中学生全員には調査のご協力を致します。あとは15歳以上の町民の方ということで対象としております。
委員	その調査の仕方なのですが、紙媒体ですか。
事務局	この後ご説明をしますけども、8月にテストアンケートをさせていただきました。そちらはWeb版だけで実施をしました。そうするとなかなか高齢者の方がご回答するのが難しいということで、今回町民アンケート3,000名につきましては、Webと紙の両方で実施をさせていただきます。ただ、中学生、事業所につきましては、チラシのほうを作成しまして、Webで回答のご協力をお願いするというかたちで実施をさせていただきます。
会長	他にどうでしょうか。 では、続いて(3)に移りまして、まとめて質疑応答に入りたいと思います。 続きまして(3)ですね、テストアンケートおよび本アンケートにつきまして、事務局から説明お願いいたします。
事務局	資料4により事務局より説明
委員	紙によるアンケートということなのですが、目の悪いお年寄りのために、文字を大きくするなど配慮されるのでしょうか。
事務局	アンケートの表記に関しましては、ものすごく大きいというわけでもないですけども、一定の文字サイズを確保しまして、ある程度見やすい形でご準備はさせていただいております。

会長	他にどうでしょうか。
委員	中学生にはチラシを配布するということなのですが、配布をしてやりたい人はやってねという形なのか、タブレットとかで学校で時間を設けてもらって一斉にやってもらうのか、教えていただきたいです。
事務局	学校には強制ではなくて、あくまで配っていただいて自主的に回答していただくかたちで構わないということでお願いをさせていただいています。
委員	このアンケートというのは町の大きな指針を考えていく上ではどのくらい重要ととらえてやるのか、それによって 3,000 人に聞くというのは足りているのかなと。小さい町なので、もっとちゃんと聞けるのではないかなと思うので。100%は無理でも、この人口に対してそれをもとに進めるのであれば、どうして 3,000 人なのかというのが、なんでなのかなと思う。
事務局	今回のこのアンケートは、総合計画の作り方を、今までとはちがう町民の幸福度をメインに事業展開を図っていくというかたちでの、計画を作るということになっておりますので、このアンケートは非常に重要なものになると考えております。おっしゃる通り、全数、全員に送ればということも当然あるのですが、統計学的手法的な話の中で、アンケートの正確性を確保する計算の中で、この数量で大丈夫ではないかというところで、一応 3000 件で判断をさせていただきました。ご理解をいただければと思います。
委員	それで大丈夫ではないかというのは、数字に疎いもので、例えば人口の 8,000 人の中で、実際に住んでいる人とか、たぶん役場の方のほうがご存じなんだろうと思うんですけども、その中でこれくらいの数字が、これくらいの人に聞けばというのが。でも、このアンケートの内容はすごく細かいし、本当に一人ひとり違う答えが出る内容だと思うんですけど、そうやって数字で区切れるものなのかなというのが。だったらもうちょっと、もっと簡単なものを全町民にやってもいいんじゃないかとか。すごく細かいものは 3,000 人かもしれないけれど、もうちょっと簡単なものでたくさんの意見を拾えないのかなと思いました。統計学からしたら、それは意味ないんだよねということかもしれないんですけども、それもアリなのかなと思いました。
事務局	そういう考え方も当然あると思います。なるべく多くの方からご意見をというところで、それでアンケートだけではなくて、ワークショップですとかフェスティバルのほうで、インタビュー形式でご意見を伺うなど、そういう取組もあわせて行うというところで補完できればなという風に思っております。実は正確な統計学の何%とか、信頼度とか誤差ですとかというところは私もそこまでは詳しくはわからないのですが、データ処理に関連いたしまして知見がある事業者とも作成支援をやらせていただいておりますので、一応足りているという認識ではあるのですが、そのほかの取組もしているということでご理解いただければと思います。
委員	今統計学の話が出たんですけども、国勢調査等は回収率が 24%くらいは範囲に入っているのでも納得するのですが、中井町の町民の人数からしますと 10 代ずつ分けてしまうとテストアンケートの結果もそうなのですが、19 歳以下が 10 人なんですね。答えた中でそれを加重平均するなりして、それが町民としての 10 代以下の考えという考え方もあるんですけど、実際にこれを

	出さなかった 75%の回答を見たことにしないということはね、そういったことは統計学の中でいつもちょっと引っかかってしまうんですけども、もしわかりましたら見解等教えていただければと思います。
事務局	まさにテストアンケートでは、そういった課題を分析するというかですね、傾向を確認することを主眼としておりました。テストアンケートの中では、年代別で 10 代ごとにアンケートの結果まとめておりますけれども、資料先ほど山本様にご紹介いただきました、20 ページご覧いただければと思います。本アンケートの実施概要のページでございます。こちらの右側にですね、今回、この本アンケートを実施するにあたっては、10 代の人数とか、20 代の人数とかきってしまうと人数の確保が非常に難しいなと思っております。そのため、少し年代を束ねて 10 代、20 代と切るのではなくてある程度人口層が 15 歳から 25 歳未満、25 歳から 40 歳未満、40 歳から 50 歳未満という形で 15 歳ごとくらいに区切りを置くことによって人口の数を稼ごうとしております。これによってすこし移住定住の問題もありましたけども、転出の関係で大学卒業することに出てしまうじゃないかと、就業によって戻ってくるというところを見ていく人数の確保ができてくるのではないかと考えております。この時に必要な標本サイズというものが、先ほどの統計学上の分析するにあたって、一般化されると、要は傾向がでるときに信頼性がおける人数というのはこれくらい確保しなさいというものが 21 ページの計算式で求められるものなのですが、15 歳から 25 歳 877 人という人口に対して一定の信頼のおけるアンケート結果を得られるためには 139 名の回答が必要だということが、この計算式から得られます。ちょっと数字だけなので、ほんとうにどうなの、聞いていない人はどうなるのだというところはあると思うのですが、一応統計学上はこの 139 名の方から回答が得られれば、それは統計上優位な分析結果という傾向が得られていることが統計学の中で言われております。これが得られるように配布の数を設定しております。25%の方が回答いただければ 139 の数に達するような配布数を今回設定致しました。できる限り、町民の皆様方にご協力いただければ、より信頼度の高いアンケートの結果というのが得られますけれども、やはりテストアンケートの結果での web の回答であったりとか、今回様々な要素を含んだアンケートになっておりまして、設問数がちょっと多いというところもあって、多少アンケートの回答率下がるかなということも予測もしておりますので、少し若年の世帯ではスマートフォンで回答いただけるように、アンケートの設計もしておりますので、是非我々もですね、中井町と一緒に PR させていただきまして、町民の皆様方にもご協力いただいて、一定のアンケート収集を行ったうえで、正確性のある分析というものを進めていきたいと考えております。こちらでご理解いただけましたでしょうか？
委員	そのためにも、町のほうにも PR してアンケートに答えるということに関して、町民の方一人ずつに伝わるといいかなと思います。
事務局	テストアンケートの際にもですね、中井町でも SNS で発信もしていただきましたし、我々としてもアンケート期間中である美・緑なかいフェスティバルでもインタビューの実施とともに、アンケートのご協力のお願いもさせていただきたいなと思っておりますので、皆様におかれましても周辺の方々とかにもご協力をお願いいただけると幸いです。
会長	他にどうでしょうか。

委員	アンケートの回答についてで、回答してくださっている時点で中井町のこういうことに協力したい、参画したいという思いがあると思うので、比較的幸福度であったりは高い水準で出るのではないかと、バイアスがかかってくるのではないかと思います。もしくはものすごく不満で、何か思いがあるっていうそういう風な数字になるのではないかと思いますので、アンケートの戻ってくる率に関して、参画意識の指針としてとらえることができるのではないかと思いますので、今後どのように計画されているかはわからないのですが、アンケートを繰り返しやっていくということが、予定されているのかを教えていただければと思います。
事務局	ありがとうございます。今年度につきましては、アンケートは8月で最後になります。ただし令和9年から本計画を策定した後において、各施策に指標を設けさせていただきます。それに加えて、予定ですと毎年、アンケートを実施して町民の皆さんの幸福度等を図りながらPDCAを回していくことを考えております。
委員	ありがとうございます。そうするとアンケートを回答したい、中井町に参画したい、協力したいという方が増えていくというようなことも測ったり思い描けたりするかなと思いましたので、いい循環になるといいなと思いました。ありがとうございます。
委員	また同じような質問かもしれないのですが、さきほどの3,000人に聞けば十分な統計がとれるであろうというのは理解したのですが、町としては3,000人以上のアンケートを取ることが不可能なのか、できるけれども3,000人あれば十分だからこのあたりでいいのではないか、という考えなのか、これ以上の数は業務的にも無理などの理由があるのかどうかを知りたいです。
事務局	技術的には全数全員の方にお送りすることは可能かと思います。ただ、それは費用対効果という面から見ますと、全員にお送りする必要はあるのかなというところがあります。悉皆調査といまして国勢調査は全員の方に調査をするというかたちになっておりますけれども、アンケート調査の標本サンプルは傾向をつかむ、信頼性のある傾向をつかめるということになりますので、必要な程度が確保できる範囲内であればということで3,000という数字を出させていただきました。費用を無制限にかけてもということであれば、全数ということもあるのですが効率性や費用の面から考えて、信頼性を確保できる数字でやらせていただくというのが考え方ということになります。
委員	アンケートの年齢15歳から25歳というのは、中学生というお話がありましたので13歳も含むという認識でよろしいでしょうか。
事務局	本アンケートにつきましては、中学生からになります。
委員	13、14、15歳なので、15歳ではなくて13歳という表記の仕方になるのか、15~25歳の表記の中に13歳も含むのかという。
事務局	標本数ということになるので、無作為抽出する場合に何通送るかという形の計算で入れていますので、中学生については一応全員に別枠でお送りしますので、すみません計算では入れていないということになります。

委員	もう1点なんですけれども、さきほどもがもう少し簡単に皆さんにアンケートもらえないかという風におっしゃっていて、中井町から送られてくるこれというのは、例えば簡単なもので幸福度アンケートにご協力くださいと、安易には使えない情報発信なのか、情報発信として、世代としてLINEで送られてくるものに関しては、結構私は目を通すのですが、それを活用することは得策じゃないのか、あまりしたくないのか、あまり有効じゃないのか、どうでしょうか。
事務局	今回のアンケート調査につきましては、先ほど申しましたように50問程度になっております。これについては内閣府などもウェルビーイングの推進を進めているのですけれども、全国的にもウェルビーイングというものを調査したりしています。そこでベースで使われるウェルビーイング指標というものがあるのですけれども、比較的それに近いものを設定させていただいております。なぜかといいますと、本当に中井町独自だけでやりますと、他市町村と比較がいいか別にしても傾向がつかめないことになってしまいますので、中井町近郊の1万人以下の市町村、もしくは全国で中井町と似たような市町村で似たような調査をやっている、そことの比較ができるといった感じで、どうしても政策の立案をしていくにはこのくらいの質問数が必要だろうということで質問させていただいております。あとは簡易なアンケートはできるのですが、簡易なアンケートで行政がその結果をもとに何をしたいかというところですね、あまり簡易すぎてもなかなか具体的な、ほんとに幸福ですか、幸福ではないですかというだけを聞いたとしてもあまり施策に反映がしていけないと思われます。ですので、今後毎年の実施のアンケートについてもどうやっていくかについてもこれから検討させていただきますが、なかなか2・3問や10問くらいでできるものではないかと。皆様の大切な税金を使わせていただいて施策を行っておりますので、もう少し詳細な内容というのも把握したいということあって、これからも検討させていただきます。別にできないことではないです。あとはやり方とそれをやった後どう反映していくかというものがちゃんと確立できればできるお話したと思います。
委員	ありがとうございます。ではやはり周知とか、知ってもらおうとかそこに端末を利用してもらって、やはり皆さんに興味を持ってもらえるような発信をぜひこれからもお願いいたします。
会長	時間も大体来ておりますので、よろしいですかね。 では、こちらで進めていただければと思います。

6. その他

今後のスケジュールについて

資料5により事務局より説明

委員	今日は全体の流れというのが見えてきたので、今後会話をされていく中で気になった部分など伺いできればなと思っています。いろいろと皆さんがご質問されている中で解消できたところがあったので、ありがとうございます。
委員	先ほどアンケートの件でお聞きしたかったのですけれども、アウトプットの仕方なのですが、テストアンケートのほうでは項目別で出ていると思うのですが、世代別でどう考えているかというものを出すこと可能ですよね

事務局	もちろん世代別に出すこと可能です。今後の分析においては、項目と年代とかだけではなくて、我々が持っている技術を使って因果関係の分析だとかクロス集計も含めて中井町の町民の皆様が感じていらっしゃる幸福感にとって、どういう要素が重要なのか、分析をさらに深めていきたいと思います。
委員	今回 10 年後の計画というところある程度世代間が、若い方の意見も拾ってあげないとあまり意味がないのかなというところがありましたので、若年層の意見をあまり無視しないで施策に落とせば一番いいのかなと思いました。ありがとうございました。
委員	このウェルビーイングというのはなかなか聞くのは大変だということで、こういったなかで、広報をしっかりしたより多くのデータをとっていただきたいというのがあります。1 点確認したいことがあるのですが、アンケートの項目の中で移動に関するものがないんじゃないかなというところがありましたので、そこが 1 点と、年代別で標本抽出すると思いますけど、やっぱり性別とか地区などで、後で補正をするのかというのが気になりました。
事務局	地区別などで人数の補正をするかどうかは出てきた結果で検討かと思っております。井ノ口の地区と中村の地区とで分けて考えるのか、どういうくくりで分けてみていくのかは数字をみながら議論していきたいと考えております。交通に関しては、それぞれの政策ごとに、一つ一つの政策に対して満足度どうですか、交通充実していますかということに関して聞いていく調査をする、たいてい不満が多くなってくるのかなと思います。それよりはむしろ町民の皆様が幸福度を感じているのかというところが、中井町にとってこれから重要なところになりますので、政策に対する課題一個一個をこのアンケートで良し悪しを決めていくというよりは、これからどういう中井町にしていくのかという観点からアンケート設計を中井町の皆様方とご議論させていただき中で設計しているものになりますので、今回このような形で作らせていただきました。
委員	社会協議福祉会の立場から、今後中井町でも高齢者が必然的に、団塊の世代が 75 歳になられるということで、これからさらに本格的な高齢社会が中井町でもと到来するというなかで、社協としたしましても、高齢者それから障害を持った方、それからひとり親家庭と生活に何らかの支援をする必要な方に対しても、住みやすい幸福感を持って生活できるような視点で社協としたしましても今後の計画づくりに尽力できればというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。
委員	重点プランで出生数 29 名をみてびっくりしたのですけれども、これでは学校が消滅してしまうのではないかなという危機感もあります。ただ中井の満足度が非常に高いという数字が出ているのでこれをうまく組み合わせていけば、解決されていくのではないかなと思います。
職務代理	個別の活性化プロジェクトのほうについてはもう少し担当がしっかり各課の状況を説明できるようにしたいと思っております。アンケート結果としては、これをもう少し多くの方からご意見いただいて、逆にそれで結果にどういう違いが出てくるかということも知りたいかなと思います。今回ウェルビーイングの視点を置いた中で初めて作る計画です。そこにはアンケート結果が十分反映されて行かなくてはいけないかなと思いますので、そこをしっかりと受けたうえで、皆様

	方とよりよい計画を作ればいいかなと思いますので、引き続きご協力をお願いいたします。
町長	改めましてご議論ありがとうございました。今回の中でですね、アンケートについてはいろいろとご議論いただいたところでございます。どうしても中井町アンケートを取らせていただきますと回収率が3～4割というところもございますので、なるべくは底上げをし、優位な数値としてですね、残していくためにみんなでほんとうに努力しなければならないと思っております。今回はですね、幸福という部分においてはいろいろなレベルが町民のアンケートのみならず、町民様とのワークショップ、あるいは、美・緑なかいフェスティバルでの学生の皆様をとおしてのインタビューをしていくと、そういったストーリーも含めた形での取り組みにしていきたいと思いますので、このアンケートのみならず多面的な課題意識、幸せの実感をとらえながら、ふくらみのあるあるいは実効性ある形にしていきたいと思っております。そこに向けて皆様のご協力、町も頑張っていりますけれども、皆様のご協力とですね、この機会を通して活発なご議論いただきまして、その中でいろいろな気づきも与えられましたので、是非いろいろとご指摘いただきながら、牧瀬先生のもと総合計画を作っていけたらと願っております。何卒よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。
会長	ありがとうございました。本日の議題はすべて終了いたしました。無事に時間内で終わりましたので、皆さんご協力ありがとうございました。あとは事務局に戻したいと思います。よろしくお願いいたします。
事務局	本日は長時間にわたりご協議をいただきまして、大変ありがとうございました。今回このウェルビーイングですね、幸福度をうまく整理を致しまして、その結果から浮き彫りになる課題について行政ばかりではなく、町民の方、事業者などを巻き込んだ共通の理解をはかっていくことが大事なのかなと考えております。さまざまな関係者間で町づくりの方針について共通理解を醸成しつつ、まちづくりに対する主体性を喚起しながら、地域のまちづくりに向けて、問題解決に寄与するようにしていただければと考えております。 次回の会議につきましては、本日説明させていただきましたアンケート調査の取りまとめが終了した段階で開催したいと考えております。先ほどご説明させていただいた通り、12月中旬に開催できればと考えております。また改めて日程調整のご依頼をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。本日の意見を踏まえ、引き続き第7次中井町総合計画の策定を進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。では、これを持ちまして本日の総合計画審議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。